

鉄道駅バリアフリー料金制度について

● 通達（軌道法施行規則第21条第2項第4号に規定する料金及び 鉄道事業法施行規則第34条第1項第4号に規定する料金の取扱いについて（国鉄都第111号））	1
● 西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）	13
● 京阪電気鉄道株式会社	26
● 大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）	35
● 阪神電気鉄道株式会社	45
● 阪急電鉄株式会社	51
● 山陽電気鉄道株式会社	59
● 神戸電鉄株式会社	66



国鉄都第 111 号
令和 3 年 12 月 28 日

各地方運輸局長 殿
沖縄総合事務局長 殿

鉄 道 局 長
(公 印 省 略)

軌道法施行規則第 2 1 条第 2 項第 4 号に規定する料金及び鉄道事業法施行規則第 3 4 条
第 1 項第 4 号に規定する料金の取扱いについて

今般、軌道法施行規則（大正 1 2 年内務省・鉄道省令）及び鉄道事業法施行規則（昭和 6 2 年運輸省令第 6 号）の改正により、軌道法（大正 1 0 年法律第 7 6 号）第 1 1 条第 1 項に規定する国土交通省令で定める旅客の料金として「利用者ノ円滑ナ移動及施設ノ利用ノ為ニ設ケラルル設備ニ依ル安全且円滑ナ運送ノ確保ニ係ル料金」が、鉄道事業法（昭和 6 1 年法律第 9 2 号）第 1 6 条第 4 項に規定する国土交通省令で定める旅客の料金として「利用者の円滑な移動及び施設の利用のために設けられる設備による安全かつ円滑な運送の確保に係る料金」がそれぞれ新たに定められた。

当該料金の取扱いについて、具体的に下記のとおり定めたので、遺漏なきよう取り計らうとともに、管下関係事業者にも周知徹底せられたい。

記

1. 料金の届出について

本通達の対象となる料金は、軌道法（大正10年法律第76号）第11条第1項又は鉄道事業法（昭和61年法律第92号）第16条第4項に基づく料金であり、鉄軌道事業者は、当該料金を定めるときは、あらかじめ、その旨を国土交通大臣から委任を受けた地方支分部局（地方運輸局及び沖縄総合事務局をいう。以下同じ。）に届け出る必要がある。

届出に際しては、当該料金が第2次交通政策基本計画（令和3年5月28日閣議決定）における「鉄道駅のバリアフリー化の推進は、エレベーターやエスカレーター、ホームドア等の整備を通じ、高齢者や障害者だけでなく、全ての利用者が受益するとの観点から、都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める枠組みを構築する」との考えに基づき創設されたものであることを踏まえ、制度の適正な運用のため、本通達に記載する事項を踏まえて鉄軌道事業者が作成するバリアフリー整備・徴収計画（以下「整備等計画」という。）の添付を求めることとする。

2. 整備等計画の記載事項について

整備等計画の記載事項は以下のとおりとすることとし、様式1により作成すること。なお、整備（更新及び維持管理を含む。以下同じ。）に関する記載に当たっては、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年法律第91号。以下「バリアフリー法」という。）に基づく基本方針の目標期間である2021年度から2025年度までの期間における計画を作成するとともに、2026年度以降も当該制度を活用して整備を行う場合には、同年度以降の計画についても作成することとする。

(1) 鉄軌道事業者名

事業者名を記載する。

(2) 整備方針

バリアフリー整備に関する方針を記載した上で、「2021年度～2025年度」及び「2026年度以降」のそれぞれにおける計画策定に当たっての考え方を記載する。

(3) 料金額

券種別の設定額及び年間徴収額を記載する。

(4) 料金徴収対象駅

当該料金を徴収する対象駅について、路線図の活用等により分かりやすく明示する。

(5) 総徴収額

年間徴収額（券種別の年間徴収額の合計額）、徴収期間及び総徴収額を記載する。

(6) 総整備費

2025年度までの計画に要する整備費（更新費用及び維持管理費用を含む。以下同じ。）、

2026 年度以降の計画に要する整備費及び総整備費を記載する。

(7) 整備内容

「2021 年度～2025 年度」及び「2026 年度以降」のそれぞれの期間における、設備の設置、改良及び更新については①から③までの事項を、維持管理及び収受システム改修等については③の事項を記載する。

- ① 設備の名称
- ② 整備数
- ③ 整備費

(8) 料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数

「2021 年度～2025 年度」及び「2026 年度以降」のそれぞれの期間における料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数を記載する。

3. 整備等計画策定時における各項目の考え方について

整備等計画における各項目については、以下に掲げる考え方に従って定めるものとする。

(1) 整備対象設備の考え方

整備等計画において対象とすることができる設備（車両を含む。以下「バリアフリー設備」という。）は、以下に掲げるものとし、バリアフリー法第8条第1項に規定する公共交通移動等円滑化基準（以下「移動等円滑化基準」という。）が定められているものにあっては、当該基準を満たすものとする。

① ホームドア関連

ホームドア、定位置停止装置（TASC）

② 段差解消関連

エレベーター、エスカレーター、スロープ、ホームと車両の間の段差・隙間の縮小に資する設備

③ 経路案内関連等

案内設備（文字・音声等による運行情報提供設備、設備を示す標識等）、内方線付き点状ブロック等

④ その他

バリアフリースイレ、車両（ホームドアの整備や段差解消等に資する更新であって、ホームドアの整備や段差解消等との一体性を確認できるものに限る。）、車両のフリースペース、その他移動等円滑化基準に基づき整備する設備及びその構造を移動等円滑化基準に適合させる設備

(2) 整備費の考え方

① 対象費用

整備等計画において対象とすることができる費用は、交通政策基本計画における考え方に基づき、利用者の受益と負担を踏まえて設定することとし、具体的には以下に

掲げるものとする。

イ．バリアフリー設備の設置費

2021 年度以降に発生した費用であり、2021 年度以降に供用したバリアフリー設備に係るものに限る。

ロ．バリアフリー設備の改良費・更新費

2021 年度以降に発生した費用であり、2020 年度以前に整備したバリアフリー設備に係るものを含む。

ハ．バリアフリー設備の維持管理費

2021 年度以降に発生した費用であり、2020 年度以前に整備したバリアフリー設備に係るものを含む（バリアフリー設備以外の設備と明確に区別でき、かつ、バリアフリー設備との関連性を合理的に説明できるものに限る。）。

ニ．その他費用

2021 年度以降に発生した費用であり、収受システムの改修費、駅務機器改修費、駅頭表示改修費、借入金に係る支払利息その他のバリアフリー設備との関連性を合理的に説明可能な費用に限る。

② 整備費の妥当性

鉄道固有の設備であり、競争が働きにくいホームドアの設置に係る契約に当たっては、原則、一般競争入札に付すこととする。ただし、やむを得ず、一般競争入札に付すことができず、随意契約による場合には、複数業者の見積もりとの比較や請負業者との価格協議等により、適正価格での発注に努めるとともに、毎年度の整備実績の公表において、様式 2 により、その理由等を明確にすることとする。

なお、本通達の発出以前に契約済みのホームドアの設置については、この限りでない。

（３） 総徴収額・料金額の考え方

① 総徴収額

料金の総徴収額は整備等計画における総整備費を超えない額とする。

② 料金額

料金額については、鉄軌道事業者がそれぞれ設定することとなるが、設定に当たっては、本料金制度が、第 2 次交通政策基本計画における「都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める枠組みを構築する」との考えに基づき創設されたものであることを踏まえ、利用者に過度の負担感を与えないものとする必要がある。また、通学定期料金については免除するなど家計負担への配慮を行うこととする。

（４） 料金徴収対象駅の考え方

料金の徴収対象駅は、交通政策基本計画における「鉄道駅のバリアフリー化の推進は、エレベーターやエスカレーター、ホームドア等の整備を通じ、高齢者や障害者だけでな

く、全ての利用者が受益するとの観点から、都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める枠組みを構築する」との考え方にに基づき、受益と負担の関係から利用者の理解が得られるよう、鉄軌道事業者において設定することとする。

4. 透明性の確保について

利用者の受益と負担の関係を明確化し、制度の円滑・適正な運用を図る観点から、鉄軌道事業者において、利用者に対して必要な情報提供を行うこととする。

(1) 整備等計画の公表

鉄軌道事業者は、料金の届出後において、以下に掲げる項目をウェブサイトにおいて公表することとする。加えて、会社の IR 資料や駅構内掲示・車内吊り・広報誌による情報提供、テレビ・新聞等マスメディアでの発表、利用者窓口の設置など積極的な情報提供を行うこととする。

- ① 料金導入の概要及び理由
- ② 整備等計画
- ③ 主要プロジェクトの内容（目的、効果等）
- ④ 問合せ先

(2) 整備等計画の変更

整備等計画の内容を変更しようとする場合には、その変更点及び計画変更の理由を記載した書類並びに変更後の整備等計画により、国土交通省に届出を行うこととする。その後、当該届出の内容を 4. (1) と同様の方法により、公表し、及び積極的な情報提供を行うこととする。

(3) 進捗状況等の公表

鉄軌道事業者は、前年度の進捗状況等について、原則、当年度の 6 月末までに公表することとする。具体的な公表項目は以下に掲げるものとし、様式 2 により作成した資料を 4. (1) と同様の方法により、公表し、及び積極的な情報提供を行うこととする。

- ① 鉄軌道事業者名
- ② 当該年度の整備費
- ③ 当該年度の整備内容（駅名を明確にした上で記載することとし、設置、改良及び更新については整備数も記載）
- ④ 当該年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数
- ⑤ 当該年度の徴収額
- ⑥ 整備等計画の進捗状況
- ⑦ ホームドアの整備に当たって一般競争入札を実施しなかった場合には、その理由等

(4) 地域の関係者への説明

4. (1) ～ (3) の方法により、利用者に対して情報提供を行うことに加え、地域

のニーズを把握する観点から、バリアフリー法第52条の4に基づく会議の場において進捗状況等を説明するなど地域の関係者への説明機会を設けることとする。

5. 国土交通省への資料提出等について

制度の円滑・適正な運用を図る観点から、国土交通省において制度の運用状況を適宜確認するとともに、利用者の利益が保護されていないと認められる際には、必要な措置を講ずることとする。

(1) 料金導入について

1. に記載のとおり、鉄軌道事業者は、当該料金を定めるときは、あらかじめ、その旨を地方支分部局に届け出る必要があり、当該届出に当たっては、整備等計画を添付する必要がある。国土交通省においては、鉄軌道事業者により届け出された整備等計画が本通達に記載する事項を踏まえた適正なものであるか確認することとする。

(2) 進捗状況等について

鉄軌道事業者は、4. (3) による公表に先立ち、前年度の進捗状況等について、原則、当年度の6月末までに様式2により当該料金の届出を行った地方支分部局に提出することとする。国土交通省においては、鉄軌道事業者により提出された進捗状況等に記載されている整備費の実績を確認するとともに、事前届出時において当該事業者より提出されていた計画と大きな乖離がないか確認することとする。

(3) 進捗状況等の公表について

4. (3) により、ウェブサイトにおいて資料を公表した際には、その旨を国土交通省に報告することとする。やむを得ない場合を除き、当年度の6月末までにウェブサイトにおいて資料が公表されていない事実が認められるときには、必要に応じて、鉄道事業法等に基づく措置を講ずるとともに、国土交通省において、当該鉄軌道事業者に代わって利用者に対する情報提供等に関する取組を実施することとする。

(4) 地方支分部局における対応について

届出の受理に関する事務を行うこととなる地方支分部局は、鉄軌道事業者より当該料金に関する相談があった場合、速やかに国土交通省本省に対して情報を共有することとする。

6. 補助制度との関係について

本料金制度の対象とするバリアフリー設備の整備については、国による補助金の対象とすることはできない。ただし、地方公共団体による補助金と本料金制度の併用を妨げるものではない。

7. その他

バリアフリー法に基づく基本方針の目標期間が終了する2025年度末において、鉄軌道事

業者は、当該料金を活用したバリアフリー設備の整備に係る実績や進捗状況、その時点における料金の総徴収額等を公表するとともに、整備等計画策定時点において見込んでいたものと異なる事実に関する対応方針を記載することとする。また、2026 年度以降の整備等計画の実施に際しては、バリアフリー法に基づく基本方針の改定や次期交通政策基本計画の策定に向けた議論の状況及び結論を踏まえた整備等計画の見直しなど必要な措置を講じた上で、整備等計画を実施することとする。

以上

20〇〇年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	
---------	--

本年度整備費	百万円
--------	-----

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイレ	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	駅
	二経路以上確保駅	駅

本年度徴収額	百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)			
備考			

本年度までの累計整備費	百万円
本年度までの累計徴収額	百万円

20〇〇年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
スロープ	駅	ヶ所	百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線	百万円
段差隙間縮小	駅	番線	百万円
バリアフリースイレ	駅	ヶ所	百万円
車両のフリースペース	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
バリアフリースイレ	駅	ヶ所	百万円
車両	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費	百万円		
収受システム改修費	百万円		
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)	百万円		
備考			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	番線	%	駅	%	駅	%
2022年度	番線	%	駅	%	駅	%
2023年度	番線	%	駅	%	駅	%
2024年度	番線	%	駅	%	駅	%
2025年度	番線	%	駅	%	駅	%
累計	番線	%	駅	%	駅	%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	番線	%	駅	%	駅	%
2027年度	番線	%	駅	%	駅	%
2028年度	番線	%	駅	%	駅	%
2029年度	番線	%	駅	%	駅	%
2030年度	番線	%	駅	%	駅	%
・ ・ ・						
累計	番線	%	駅	%	駅	%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
例) ○○駅ホームドア整備事業（××駅△△番線）			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。

鉄道駅バリアフリー料金制度に関するバリアフリー設備の整備進捗状況について

西日本旅客鉄道株式会社

【2021 年度 バリアフリー整備等実績（様式 2-1）】

- ・ 2021 年度の整備費
1,489,000,000 円です。
- ・ 整備完了実績
ホーム柵、エレベーター、エスカレーター、段差隙間縮小に資する設備、ホーム安全スクリーンについて整備が完了した設備はございません。
- ・ 料金徴収によるホーム柵設置番線数、段差解消駅数
料金徴収によるホーム柵設置番線数、段差解消駅数はございません。
- ・ 2021 年度の料金徴収額
料金徴収額はございません。
- ・ 2021 年度までの累積整備費
累積整備費は 1,489,000,000 円です。
- ・ 2021 年度までの累計徴収額
累計徴収額は 0 円です。

【2022 年度 バリアフリー整備等実績（様式 2-1）】

- ・ 2022 年度の整備費
整備費は 2,539,000,000 円です。
- ・ 整備完了実績
ホーム柵は、三ノ宮駅にて 1 番線、大阪駅にて 1 番線、合わせて 2 駅 2 番線で整備が完了しました。
ホーム安全スクリーンは、茨木駅にて 2 番線、放出駅にて 4 番線、合わせて 2 駅 6 番線で整備が完了しました。
エレベーター、エスカレーター、段差隙間縮小に資する設備について 2022 年度に整備が完了した設備はございません。
- ・ 料金徴収によるホーム柵設置番線数、段差解消駅数
ホーム柵にて 2 番線の設置を行いました。

段差が解消した駅はございません。

- ・ 2022 年度の料金徴収額
料金徴収額はございません。
- ・ 2022 年度までの累積整備費
本年度までの累積整備費は 4,028,000,000 円です。
- ・ 2022 年度までの累計徴収額
累計徴収額は 0 円です。

【2021 年度 バリアフリー整備等実績（様式 2-2）】

（１）設置・改良費

ホーム柵は、三ノ宮駅にて 2 番線、大阪駅にて 1 番線を新規に着手し、合わせて 2 駅 3 番線の整備に 652,000,000 円を要しました。

エレベーター、エスカレーター、段差隙間縮小に資する設備、ホーム安全スクリーンにおいて整備した設備はございません。

（２）更新費

更新費はございません。

（３）維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）

維持管理費は、エレベーター、エスカレーター、ホーム柵の維持管理に 837,000,000 円を要しました。

収受システム改修費、その他費用はございません。

【2022 年度 バリアフリー整備等実績（様式 2-2）】

（１）設置・改良費

ホーム柵は、三ノ宮駅にて 2 番線、大阪駅にて 1 番線を継続整備、弁天町にて 2 番線、西九条駅にて 4 番線、天王寺駅にて 2 番線を新規着手し、合わせて 5 駅 11 番線の整備に 1,510,000,000 円を要しました。

エレベーター、エスカレーター、段差隙間縮小に資する設備において整備した設備はございません。

ホーム安全スクリーンは茨木駅にて 2 番線、放出駅にて 4 番線を新規に整備し、合わせて 2 駅 6 番線の整備に 153,000,000 円を要しました。

(2) 更新費

更新費はございません。

(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）

維持管理費は、エレベーター、エスカレーター、ホーム柵の維持管理に 859,000,000 円を要しました。

収受システム改修費に 10,000,000 円を要しました。

その他費用に 7,000,000 円を要しました。

【バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025 年度までの計画）（様式 2-3）】

計画進捗率は、2021 から 2025 年度における設置番線数または段差解消駅数に対する、当該年度までの設置番線数または段差解消駅数の累計設置番線数の割合を示します。

・ホーム柵設置番線数

2021 年度は設置数 0 番線、計画進捗率 0%です。

2022 年度は設置数 2 番線、計画進捗率 11%です。

2023 年度は設置計画数 1 番線、計画進捗率 16%となる見込みです。

2024 年度は設置計画数 6 番線、計画進捗率 47%となる見込みです。

2025 年度は設置計画数 10 番線、計画進捗率 100%となる見込みです。

・段差解消駅数

2021 年度から 2025 年度に段差解消する駅の計画はございません。

【バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026 年度以降の計画）（様式 2-4）】

計画進捗率は、2026 から 2027 年度における設置番線数または段差解消駅数に対する、当該年度までの設置番線数または段差解消駅数の累計設置番線数の割合を示します。

・ホーム柵設置番線数

2026 年度は設置計画数 6 番線、計画進捗率 33%となる見込みです。

2027 年度は設置計画数 12 番線、計画進捗率 100%となる見込みです。

・段差解消駅数

一経路確保駅

2026 年度は整備計画駅数 0 駅、計画進捗率は 0%となる見込みです。

2027 年度は整備計画駅数 1 駅、計画進捗率は 100%となる見込みです。

二経路確保駅

2026 年度は整備計画駅数 0 駅、計画進捗率は 0%となる見込みです。

2027 年度は整備計画駅数 1 駅、計画進捗率は 100%となる見込みです。

【ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）（様式 2-5）】

- ・「西九条駅（1・2・3・4 番線）外ホーム柵新設に伴う詳細設計」にて 59,000,000 円、「天王寺駅（11・14 番線）ホーム柵新設に伴う詳細設計」にて 11,000,000 円の随意契約がありました。
- ・随意契約とした理由は 2 件名とも、「ホーム上での調査・測量作業においては、営業線近接工事を取り扱う資格を有し、かつ、弊社仕様のホーム柵設計技術を有している設計会社による設計が必要なため」です。
- ・適正価格での発注のための措置は 2 件名とも、「過去の実績等を基に基準価格を設定し、適正な価格協議を実施」しております。

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	西日本旅客鉄道株式会社
---------	-------------

本年度整備費	1,489 百万円
--------	-----------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホーム柵	0 駅 0 番線	
エレベーター	0 駅 0 基	
エスカレーター	0 駅 0 基	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅 0 番線	
ホーム安全スクリーン	0 駅 0 番線	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	0 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	1,489 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	西日本旅客鉄道株式会社
---------	-------------

本年度整備費	2,539 百万円
--------	-----------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）			
設備名	整備数		駅名
ホーム柵	2 駅	2 番線	三ノ宮、大阪
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅	0 番線	
ホーム安全スクリーン	2 駅	6 番線	茨木、放出
備考			

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数		2 番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	4,028 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホーム柵	2 駅	3 番線	三ノ宮(新規)、 大阪(新規)
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
段差隙間縮小	0 駅	0 番線	
ホーム安全スクリーン	0 駅	0 番線	
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
エレベーター	0 駅	0 基	
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費		837 百万円	
収受システム改修費		0 百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		0 百万円	
備考	維持管理費は、エレベーター、エスカレーター、ホーム柵の維持管理に要した費用を示す。		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホーム柵	5 駅	11 番線	三ノ宮(継続)、大阪(継続)、弁天町(新規)、西九条(新規)、天王寺(新規)
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
段差隙間縮小	0 駅	0 番線	
ホーム安全スクリーン	2 駅	6 番線	茨木(新規)、放出(新規)
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
エレベーター	0 駅	0 基	
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			
維持管理費		859 百万円	
収受システム改修費		10 百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		7 百万円	
備考	維持管理費は、エレベーター、エスカレーター、ホーム柵の維持管理に要した費用を示す。		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホーム柵設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	2番線	11%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	1 番線	16%	0駅	0%	0駅	0%
2024年度	6 番線	47%	0駅	0%	0駅	0%
2025年度	10番線	100%	0駅	0%	0駅	0%
累計	19番線	100%	0駅	—	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	6番線	33%	0駅	0%	0駅	0%
2027年度	12番線	100%	1駅	100%	1駅	100%
累計	18番線	100%	1駅	100%	1駅	100%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
西九条駅（1・2・3・4番線）外ホーム柵新設に伴う詳細設計 ※弁天町1・2番線含む	ホーム上での調査・測量作業においては、営業線近接工事を取り扱う資格を有し、かつ、弊社仕様のホーム柵設計技術を有している設計会社による設計が必要なため	過去の実績等を基に基準価格を設定し、適正な価格協議を実施	59 百万円
天王寺駅（11・14番線）ホーム柵新設に伴う詳細設計	ホーム上での調査・測量作業においては、営業線近接工事を取り扱う資格を有し、かつ、弊社仕様のホーム柵設計技術を有している設計会社による設計が必要なため	過去の実績等を基に基準価格を設定し、適正な価格協議を実施	11 百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。

2023 年 6 月 21 日

西日本旅客鉄道株式会社

鉄道駅バリアフリー料金制度に関する バリアフリー設備の整備進捗状況について

JR 西日本では、より安全に安心して鉄道をご利用いただけるよう、駅のホームにおける安全性向上を重要な経営課題ととらえ、ハード・ソフトの両面からさまざまな取組みを進めております。

2023 年 4 月 1 日から京阪神地区の整備対象エリアにおいて、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、お客様のご理解とご協力をいただきながら、バリアフリー設備の整備を加速してまいります。

このたび、国土交通省近畿運輸局へ報告した 2021 年度、2022 年度の進捗状況について、お知らせします。

1. バリアフリー設備の整備進捗状況

(1) 設置・改良費

設備名	整備数 (整備中および完了)	整備駅名(のりば)		設置・改良費※2	計画進捗率※3
		整備中	整備完了		
2021 年度					
ホーム柵	2 駅 3 番線	三ノ宮(1・4)、 大阪(21)	—	652 百万円	0%
2022 年度					
ホーム柵	5 駅 11 番線	三ノ宮(1)、 弁天町(1・2)、 西九条(1～4)、 天王寺(11・14)	三ノ宮(4)、 大阪(21)	1,510 百万円	11% (2/19 番線)
ホーム安全 スクリーン	2 駅 6 番線	—	茨木(2・3)、 放出(1～4)	153 百万円	4% (6/142 番線)

※1 エレベーター、エスカレーター、段差隙間縮小に資する設備の当該年度の整備はありません

※2 整備中および整備完了の設備に対して発生した費用を示します

※3 計画期間（2021～2025 年度）における整備計画数に対する進捗率（整備完了）を示します

(2) 更新費

2021 年度、2022 年度における対象設備の更新はありません。

(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費等）

維持管理費	2021	837 百万円
	2022	859 百万円
収受システム改修費	2022	10 百万円
その他費用	2022	7 百万円

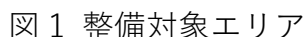
当該年度（2021、2022 年度）における料金収受はございません。

[参考]

JR 西日本では、2023 年 4 月 1 日から近畿エリアの一部エリア（図 1）において料金を収受させていただき、バリアフリー設備（ホーム柵・ホーム安全スクリーン・エレベータ等）の整備を加速してまいります。

なお、ホーム柵・ホーム安全スクリーンの整備については、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画 2027」の 2027 年度の到達目標として着実に進めることで、ホームからの転落による列車とお客様の接触事故の防止を図ってまいります。

ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



(2022 年 8 月 19 日ニュースリリース)

https://www.westir.co.jp/press/article/2022/08/page_20617.html



JR 西日本グループは持続可能な開発目標（SDGs）を奉導しています。



【お問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部 TEL：06-6375-8889

(西日本旅客鉄道株式会社)

鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況について（お知らせ）

弊社では 2023 年 4 月 1 日から運賃に加算して「鉄道駅バリアフリー料金」を収受させていただいておりますが、「鉄道駅バリアフリー料金制度の運用細目を定める通達（国鉄都第 111 号 令和 3 年 12 月 28 日付）」に基づき、2021 年度および 2022 年度のバリアフリー整備等の実績について以下の通りご報告申し上げます。

お客さまには引き続き料金のご負担をおかけしますが、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

■2021 年度実績

1. 整備費総額 11 億 2 百万円
【内訳】設備・改良費：14 百万円
更新費：10 億 20 百万円
維持管理費：68 百万円
2. 設備・改良費の内容
 - ・車両のフリースペース設置（6000 系車両 1 編成）
3. 更新費の内容
 - ・車両更新（ホームドア整備に当たって扉の枚数や位置が異なる車両の更新）
 - ・運行情報配信システム（旅客案内ディスプレイ）更新
4. 維持管理費の内容
 - ・エレベーター、運行情報配信システム
5. 2021 年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数
 - ・ホームドア設置番線数 0 番線
 - ・段差解消駅数 0 駅
6. 2021 年度の徴収額：ございません
7. 整備等計画の進捗状況：当初の計画通りに進捗しています。

■2022 年度実績

1. 整備費総額：2 億 8 百万円
【内訳】設置・改良費：20 百万円
更新費：25 百万円
維持管理費・その他費用：1 億 61 百万円
2. 設置・改良費の内容
 - ・ホームドア整備（枚方市駅ホーム補強検討業務委託費）
 - ・車両のフリースペース設置（6000 系車両 1 編成）

3. 更新費の内容
 - ・運行情報配信システム（旅客案内ディスプレイ）更新
 - ・放送装置更新
4. 維持管理費の内容
 - ・維持管理費（ホームドア、エレベーター、運行情報配信システム）
 - ・その他費用（駅務機器改修費、駅頭表示改修費）
5. 2022 年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数
 - ・ホームドア設置番線数 0 番線
 - ・段差解消駅数 0 駅
6. 2022 年度の徴収額：ございません
7. 整備等計画の進捗状況：当初の計画通りに進捗しています。

以 上

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	京阪電気鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	1,102 百万円
--------	-----------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）			
設備名	整備数		駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
スロープ	0 駅	0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅	0 番線	
バリアフリースイッチ	0 駅	0 ヶ所	
車両のフリースペース	1 編成	8 両	
その他	駅		
備考			

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数		0 番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	1,102 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	百万円
エレベーター	0 駅	0 基	百万円
エスカレーター	0 駅	0 基	百万円
スロープ	0 駅	0 ヶ所	百万円
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	百万円
段差隙間縮小	0 駅	0 番線	百万円
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	百万円
車両のフリースペース	1 編成	8 両	14 百万円
その他	駅		百万円
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	百万円
エレベーター	0 駅	0 基	百万円
エスカレーター	0 駅	0 基	百万円
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	百万円
車両	2 編成	12 両	951 百万円
その他※	駅		69 百万円
備考	※運行情報配信システム 60駅 ※旅客案内ディスプレイ 18駅		
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			
維持管理費		68 百万円	
収受システム改修費		0 百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		0 百万円	
備考	維持管理費：エレベーター、運行情報配信システムのメンテナンス		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	京阪電気鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	208 百万円
--------	---------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	0 駅 0 番線	
エレベーター	0 駅 0 基	
エスカレーター	0 駅 0 基	
スロープ	0 駅 0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅 0 番線	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅 0 番線	
バリアフリースイレ	0 駅 0 ヶ所	
車両のフリースペース	1 編成 8 両	
その他		駅
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数		0 番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	1,310 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

※端数処理の都合上、様式2-1の本年度整備費と様式2-2の整備費の合計は異なる

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	1 駅	2 番線	枚方市駅 (新規着手)
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
スロープ	0 駅	0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	
段差隙間縮小	0 駅	0 番線	
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	
車両のフリースペース	1 編成	8 両	
その他		駅	
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	
車両	0 編成	0 両	
その他※		駅	
備考	※運行情報配信システム 60駅 ※旅客案内ディスプレイ 23駅 ※放送システム 60駅		
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			
維持管理費		73 百万円	
収受システム改修費		0 百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		88 百万円	
備考	維持管理費：ホームドア、エレベーター、運行情報配信システムのメンテナンス		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	2番線	25%	0駅	0%	0駅	0%
2024年度	4番線	75%	0駅	0%	0駅	0%
2025年度	2番線	100%	0駅	0%	0駅	0%
累計	8番線	100%	0駅	—	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	番線	%	駅	%	駅	%
2027年度	番線	%	駅	%	駅	%
2028年度	番線	%	駅	%	駅	%
2029年度	番線	%	駅	%	駅	%
2030年度	番線	%	駅	%	駅	%
・ ・ ・						
累計	番線	%	駅	%	駅	%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。

Osaka Metroにおけるバリアフリーの 取組み状況について

2023年6月26日
大阪市高速電気軌道(株)

1

バリアフリーに関する当社の取組

今までも・・・

「**全てのお客さまに、より便利で快適に安心してご利用いただける地下鉄**」
を目指し、エレベーターや可動式ホーム柵の整備を推進してきました。

【バリアフリー料金制度】 2021年12月
○目的 都市部において利用者の薄く広い負担を得て、
バリアフリー化を進めること

活用

今後も・・・

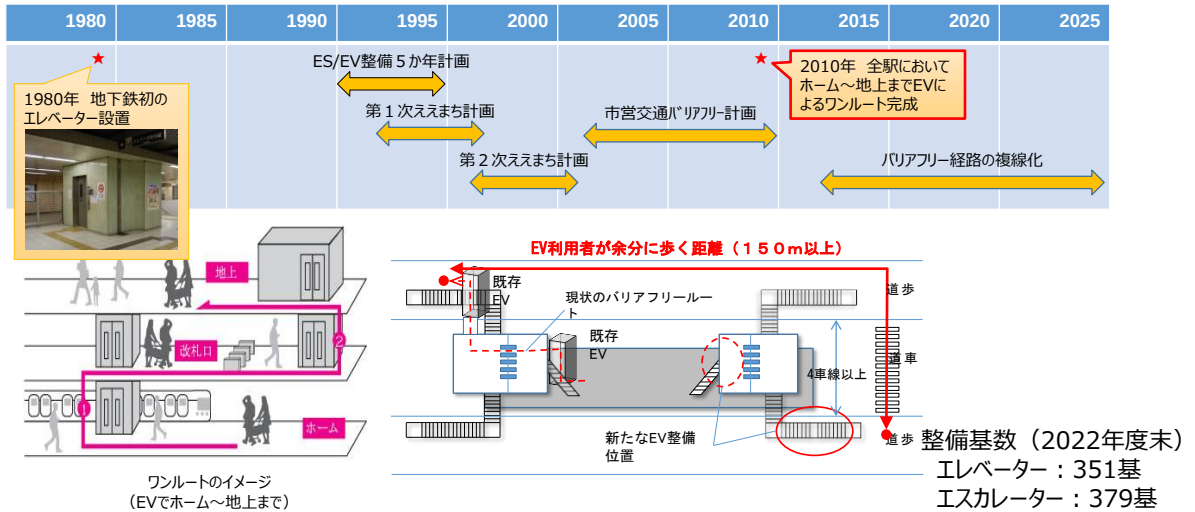
「最高の安全・安心」を追求し、あらゆるお客さまに今以上に便利で快適にご利用
いただけるよう、ハード・ソフトの両面からバリアフリー化の促進に取り組めます。

2

バリアフリーに関する当社の取組

1 これまでの取組

○エレベーター・エスカレーター



3

バリアフリーに関する当社の取組

1 これまでの取組

○可動式ホーム柵

御堂筋線	全20駅を2021年度末までに整備完了
谷町線	東梅田駅を2019年度に整備完了
四つ橋線	西梅田駅、大国町駅を2021年度に整備完了
千日前線	全14駅で2014年度末までに整備完了
堺筋線	全10駅で2022年度末までに整備完了
長堀鶴見緑地線	全17駅で2011年度末までに整備完了
今里筋線	全11駅で開業時の2006年度に整備完了
南港ポートタウン線	全10駅で開業時の1981年度及び1997年度に整備完了



堺筋線北浜駅
(2022年度設置)

4

バリアフリーに関する当社の取組

2 今後の主な取組

○エレベーター

引き続き、現状のバリアフリー経路では大幅な迂回が必要となっている駅で、バリアフリー経路を複数ルートに増やし、地下駅へのアクセス性の向上を実施。

○エスカレーター

ご利用の多い御堂筋線と中央線を優先し、改札階から地上間や乗換経路などを中心に整備を進める。

○サービス情報表示器

改札口に設置し、先発・次発情報や運転見合わせ情報、地震発生時の災害情報などを案内する。



サービス情報表示器

5

バリアフリーに関する当社の取組

2 今後の主な取組

○可動式ホーム柵

全133駅に2025年度末までに整備

谷町線

全26駅を2025年度末までに整備

四つ橋線

全11駅を2024年度末までに整備

中央線

全14駅を2024年度末までに整備

御堂筋線

千日前線

堺筋線

長堀鶴見緑地線

今里筋線

南港ポートタウン線

整備完了

6

バリアフリーに関する当社の取組

2 今後の主な取組

○列車とホームの段差隙間縮小

ホーム柵整備後、ホーム床を嵩上げし、段差を縮小し、ホーム端にくし状ゴムを取り付けて、列車とのすき間の縮小を実施



段差：2cm程度

隙間：3cm程度

上記を目標として縮小しますが、路線によって条件が異なるため値が大きくなっている箇所があります

※床面高さの異なる車両が混在する路線は段差が上記より大きくなります

また、ホーム曲線部では隙間が上記より大きくなります

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	大阪市高速電気軌道株式会社
---------	---------------

本年度整備費	2,294 百万円
--------	-----------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイレ	1 駅 1 ヶ所	江坂駅
車両のフリースペース	編成 両	
その他	各 駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	駅
	二経路以上確保駅	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)			
備考			

本年度までの累計整備費	2,294 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績				
(1) 設置・改良費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	48 駅	98 番線	(新規) 谷町線・四つ橋線・中央線※	266 百万円
エレベーター	駅	基		0 百万円
エスカレーター	駅	基		0 百万円
スロープ	駅	ヶ所		0 百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線		0 百万円
段差隙間縮小	駅	番線		0 百万円
バリアフリースイレ	1 駅	1 ヲ所	(新規) 江坂駅	5 百万円
車両のフリースペース	編成	両		0 百万円
その他		各 駅		151 百万円
備考	その他内訳：サービス情報表示器（36駅）東三国駅、昭和町駅、太子橋今市駅 他33駅 ※ 谷町線 25駅（大日駅等、設置済み東梅田駅除く全駅） 四つ橋線 9駅（肥後橋駅等、設置済み西梅田駅、大国町駅除く全駅） 中央線 14駅（コスモスクエア駅等、全駅）			
(2) 更新費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	駅	番線		0 百万円
エレベーター	9 駅	11 基	(新規) 梅田駅、大国町駅、なかもず駅、西梅田駅、西長堀駅 他4駅	370 百万円
エスカレーター	5 駅	8 基	(新規) 梅田駅、天王寺駅、なかもず駅、守口駅、蒲生四丁目駅	246 百万円
バリアフリースイレ	駅	ヶ所		0 百万円
車両	編成	両		0 百万円
その他		各 駅		194 百万円
備考	その他の内訳：旅客案内表示器、案内設備（サイン）、点字ブロック			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）				
維持管理費		1,105 百万円		
収受システム改修費		0 百万円		
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		0 百万円		
備考	ホームドア、エレベーター、エスカレーター等のメンテナンス			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	大阪市高速電気軌道株式会社
---------	---------------

本年度整備費	3,430 百万円
--------	-----------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリートイレ	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	各 駅	
備考	その他内訳：サービス情報表示器（41駅） 東三国駅、昭和町駅、太子橋今市駅、南森町駅、谷町六丁目駅、肥後橋駅、花園町駅、岸里駅、北加賀屋駅、住之江公園駅、阿波座駅、森ノ宮駅、緑橋駅、野田阪神駅、玉川駅、西長堀駅、桜川駅、今里駅、新深江駅、小路駅、北箕駅、南箕駅、扇町駅、大正駅、ドーム前千代崎駅、西大橋駅、松屋町駅、玉造駅、大阪ビジネスパーク駅、蒲生四丁目駅、今福鶴見駅、横堤駅、鶴見緑地駅、門真南駅、井高野駅、瑞光四丁目駅、だいどう豊里駅、清水駅、新森古市駅、関目成育駅、鳴野駅	

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	駅
	二経路以上確保駅	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)			
備考			

本年度までの累計整備費	5,724 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績				
(1) 設置・改良費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	48 駅	98 番線	(継続) 谷町線・四つ橋線・中央線※	1,015 百万円
エレベーター	駅	基		0 百万円
エスカレーター	駅	基		0 百万円
スロープ	駅	ヶ所		0 百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線		0 百万円
段差隙間縮小	駅	番線		0 百万円
バリアフリースイ	駅	ヶ所		0 百万円
車両のフリースペース	編成	両		0 百万円
その他	各 駅			197 百万円
備考	その他内訳：サービス情報表示器（51駅）東三国駅、昭和町駅、太子橋今市駅 他48駅 ※ 谷町線 25駅（大日駅等、設置済み東梅田駅除く全駅） 四つ橋線 9駅（肥後橋駅等、設置済み西梅田駅、大国町駅除く全駅） 中央線 14駅（コスモスクエア駅等全駅）			
(2) 更新費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	駅	番線		0 百万円
エレベーター	7 駅	10 基	(新規) 天王寺駅、なかもず駅、東梅田駅、四つ橋駅、森ノ宮駅、緑橋駅 他1駅	291 百万円
エスカレーター	7 駅	8 基	(新規) 梅田駅、東梅田駅、北加賀屋駅、大阪港駅、九条駅 他2駅	230 百万円
バリアフリースイ	駅	ヶ所		0 百万円
車両	編成	両		0 百万円
その他	各 駅			748 百万円
備考	その他の内訳：旅客案内表示器、案内設備（サイン）、点字ブロック			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）				
維持管理費		949	百万円	
収受システム改修費		0	百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		0	百万円	
備考	ホームドア、エレベーター、エスカレーター等のメンテナンス			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

(様式2-3)

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0 番線	0 %	— 駅	— %	0 駅	0 %
2022年度	0 番線	0 %	— 駅	— %	0 駅	0 %
2023年度	11 番線	11 %	— 駅	— %	0 駅	0 %
2024年度	47 番線	59 %	— 駅	— %	1 駅	20 %
2025年度	40 番線	100 %	— 駅	— %	4 駅	100 %
累計	98 番線	100 %	— 駅	— %	5 駅	100 %

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	10 %
2027年度	— 番線	— %	— 駅	— %	1 駅	15 %
2028年度	— 番線	— %	— 駅	— %	3 駅	30 %
2029年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	40 %
2030年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	50 %
2031年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	60 %
2032年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	70 %
2033年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	80 %
2034年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	90 %
2035年度	— 番線	— %	— 駅	— %	2 駅	100 %
累計	— 番線	— %	— 駅	— %	20 駅	100 %

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況について(お知らせ)

当社では 2023 年 4 月 1 日より、運賃と合わせて鉄道駅バリアフリー料金(以下「料金」といいます。)を収受しておりますが、「鉄道駅バリアフリー料金の取扱いに関する通達(国鉄都第 111 号 令和 3 年 12 月 28 日付け)」に基づき、下記の通り 2022 年度の整備等計画の進捗状況をお知らせいたします。

お客さまには引き続き料金のご負担をお願いすることとなりますが、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 整備費総額 : 8 億 76 百万円

【内訳】設置・改良費 5 億 37 百万円

維持管理費・収受システム改修費・その他費用 3 億 39 百万円

2. 主な整備内容

①設置・改良費の内容

- ・尼崎駅 ホームドア設置(ホームドア製作、ホーム補強工事等)
- ・神戸三宮駅 ホームドア関係工事(乗降検知表示灯設置等)
- ・ホームドア監視システム導入費

②維持管理費・収受システム改修費・その他費用の内容

- ・ホームドア(可動式ホーム柵)、エレベーター、エスカレーターの維持管理
- ・収受システム改修
- ・その他(駅務機器改修、駅頭表示改修)

3. 料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数

- ・ホームドア設置番線数 0 番線
- ・段差解消駅数 0 駅

4. 料金徴収額 : ごさいません

5. 整備等計画の進捗状況 : 当初の計画通りに進捗しています。

以 上

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	阪神電気鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	876	百万円
--------	-----	-----

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）			
設備名	整備数		駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
スロープ	0 駅	0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅	0 番線	
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	
車両のフリースペース	0 編成	0 両	
その他	0	駅	
備考			

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数		0 番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	876	百万円
本年度までの累計徴収額	0	百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績				
(1) 設置・改良費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	1 駅	3 番線	【新規】尼崎駅・【改良】神戸三宮駅※	537 百万円
エレベーター	0 駅	0 基		0 百万円
エスカレーター	0 駅	0 基		0 百万円
スロープ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線		0 百万円
段差隙間縮小	0 駅	0 番線		0 百万円
バリアフリースイッチ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
車両のフリースペース	0 編成	0 両		0 百万円
その他		0 駅		0 百万円
備考	※：整備数には含んでいない			
(2) 更新費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	0 駅	0 番線		0 百万円
エレベーター	0 駅	0 基		0 百万円
エスカレーター	0 駅	0 基		0 百万円
バリアフリースイッチ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
車両	0 編成	0 両		0 百万円
その他		0 駅		0 百万円
備考				
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）				
維持管理費		184	百万円	
収受システム改修費		62	百万円	
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		93	百万円	
備考	維持管理費には、ホームドア・エレベーター・エスカレーター・バリアフリースイッチの維持管理を含む			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	駅	%	駅	%
2022年度	0番線	0%	駅	%	駅	%
2023年度	6番線	27%	駅	%	駅	%
2024年度	3番線	41%	駅	%	駅	%
2025年度	13番線	100%	駅	%	駅	%
累計	22番線	100%	駅	%	駅	%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	8番線	14%	駅	%	駅	%
2027年度	9番線	29%	駅	%	駅	%
2028年度	9番線	45%	駅	%	駅	%
2029年度	8番線	59%	駅	%	駅	%
2030年度	4番線	66%	駅	%	駅	%
2031年度	2番線	69%	駅	%	駅	%
2032年度	4番線	76%	駅	%	駅	%
2033年度	6番線	86%	駅	%	駅	%
2034年度	4番線	93%	駅	%	駅	%
2035年度	4番線	100%	駅	%	駅	%
累計	58番線	100%	駅	%	駅	%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
尼崎駅ホームドア設置工事(1・2番線)の内電気関係工事	列車運行に関わる鉄道電気施設固有の設備を改良・補修する工事で、当社における当該設備の施工に精通している請負業者は一社しかいないため。	請負業者との価格協議を十分に行い、価格抑制に努めた。	50 百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況について（お知らせ）

標記の件につきまして、弊社では 2023 年 4 月 1 日から運賃に加算して「鉄道駅バリアフリー料金」を収受させていただいておりますが、「鉄道駅バリアフリー料金制度の運用細目を定める通達（国鉄都第 111 号 令和 3 年 12 月 28 日付）」に基づき、2021 年度および 2022 年度のバリアフリー整備等の実績について以下の通りご報告申し上げます。

お客様には引き続き料金のご負担をおかけしますが、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

■2021 年度実績

1. 整備費総額 7 億 17 百万円
【内訳】更新費：3 億 99 百万円、維持管理費：3 億 18 百万円
2. 更新費の内容
 - ① エレベーター更新（小林駅、宝塚南口駅、蛍池駅）
 - ② エスカレーター更新（川西能勢口駅、山本駅、高槻市駅）
 - ③ エレベーター遠隔監視装置設置費（中山観音駅） 等
3. 維持管理費の内容
可動式ホーム柵、エレベーター、エスカレーター、点状ブロック
4. 2021 年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数
 - ・ホームドア設置番線数 0 番線
 - ・段差解消駅数 0 駅
5. 2021 年度の徴収額：ございません
6. 整備等計画の進捗状況：当初の計画通りに進捗しています。

■2022 年度実績

1. 整備費総額：10 億 58 百万円
【内訳】設置・改良費：2 億 18 百万円、更新費：2 億 94 百万円
維持管理費・収受システム改修費・その他費用：5 億 46 百万円
2. 設置・改良費の内容
 - ① 可動式ホーム柵整備費（六甲駅ホーム扛上設計、石橋阪大前駅・桂駅設計）
 - ② 固定式ホーム柵整備費（伊丹線 4 駅設置設計、伊丹駅ホーム補強）
 - ③ ホームドア監視システム導入費
3. 更新費の内容
 - ① エレベーター更新費（蛍池駅、上新庄駅、豊中駅）
 - ② エスカレーター更新費（川西能勢口駅、山本駅）
 - ③ その他更新費（構内エスカレーター緩停止機能追加工事、エレベーター停止検知装置、点状ブロック更新工事）
4. 維持管理費の内容
 - ① 維持管理費（可動式ホーム柵、エレベーター、エスカレーター、点状ブロック）
 - ② 収受システム改修費
 - ③ その他費用（駅務機器改修費、駅頭表示改修費）
5. 2022 年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数
 - ・ホームドア設置番線数 0 番線
 - ・段差解消駅数 0 駅
5. 2022 年度の徴収額：ございません
6. 整備等計画の進捗状況：当初の計画通りに進捗しています。

以 上

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	阪急電鉄株式会社
---------	----------

本年度整備費	717	百万円
--------	-----	-----

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	0 駅 0 番線	
エレベーター	0 駅 0 基	
エスカレーター	0 駅 0 基	
スロープ	0 駅 0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅 0 番線	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅 0 番線	
バリアフリースイッチ	0 駅 0 ヶ所	
車両のフリースペース	0 編成 0 両	
その他	駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	0	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	717	百万円
本年度までの累計徴収額	0	百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
スロープ	0 駅	0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	
段差隙間縮小	0 駅	0 番線	
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	
車両のフリースペース	0 編成	0 両	
その他	0 駅		
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	3 駅	5 基	【新規】小林・宝塚南口・蛸池
エスカレーター	3 駅	8 基	【新規】川西能勢口・山本・高槻市
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所	
車両	0 編成	0 両	
その他	1 駅		【新規】中山観音
備考	【その他の内容】 ・中山観音：エレベーターへの遠隔監視装置設置		
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費	318		百万円※
収受システム改修費	0		百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	0		百万円
備考	※ホームドア・エレベーター・エスカレーター・点状ブロックの維持管理		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	阪急電鉄株式会社
---------	----------

本年度整備費	1,059	百万円
--------	-------	-----

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）			
設備名	整備数		駅名
ホームドア	0 駅	0 番線	
エレベーター	0 駅	0 基	
エスカレーター	0 駅	0 基	
スロープ	0 駅	0 ヶ所	
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線	
段差隙間縮小に資する設備	0 駅	0 番線	
バリアフリースイッチ	0 駅	0 ヶ所	
車両のフリースペース	0 編成	0 両	
その他	0	駅	
備考			

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		0	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	1,776	百万円
本年度までの累計徴収額	0	百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績				
(1) 設置・改良費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	3 駅	8 番線	【新規】六甲・石橋阪大前・桂	85 百万円
固定式ホーム柵	4 駅	7 番線	【新規】伊丹・新伊丹・稲野・塚口	91 百万円
エレベーター	0 駅	0 基		0 百万円
エスカレーター	0 駅	0 基		0 百万円
スロープ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
内方線付点状ブロック	0 駅	0 番線		0 百万円
段差隙間縮小	0 駅	0 番線		0 百万円
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
車両のフリースペース	0 編成	0 両		0 百万円
その他	各 駅			43 百万円
備考	ホームドア整備については、六甲駅におけるホーム扛上の設計業務を、石橋阪大前駅と桂駅においては、本線におけるホームドア設置の設計業務を実施。固定式ホーム柵については、上記駅における設計業務および伊丹駅におけるホーム補強等を実施。その他、ホームドア監視システムを導入し、遠隔監視できる仕組みを構築。			
(2) 更新費				
設備名	整備数		整備駅名	整備費
ホームドア	0 駅	0 番線		0 百万円
エレベーター	3 駅	5 基	【新規】蛸池・上新庄・豊中	205 百万円
エスカレーター	2 駅	4 基	【新規】山本 【継続】川西能勢口	73 百万円
バリアフリースイレ	0 駅	0 ヶ所		0 百万円
車両	0 編成	0 両		0 百万円
その他	駅		【新規】三国・甲東園・南千里・淡路・雲雀丘花屋敷・石橋阪大前・烏丸	16 百万円
備考	その他 構内エスカレーター緩停止機能付加工事（三国） EV停止検知装置導入（甲東園、三国、雲雀丘花屋敷、南千里、淡路） 点状ブロックの更新（石橋阪大前、雲雀丘花屋敷、烏丸）			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）				
維持管理費		312		百万円※
収受システム改修費		49		百万円
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)		185		百万円
備考	※ホームドア・エレベーター・エスカレーター・点状ブロックの維持管理			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2024年度	12番線	50%	0駅	0%	0駅	0%
2025年度	12番線	100%	0駅	0%	0駅	0%
累計	24番線	100%	0駅	—	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	16番線	11%	0駅	0%	0駅	0%
2027年度	16番線	22%	0駅	0%	0駅	0%
2028年度	16番線	34%	0駅	0%	0駅	0%
2029年度	15番線	44%	1駅	100%	0駅	0%
2030年度	16番線	55%	0駅	100%	0駅	0%
2031年度	20番線	69%	0駅	100%	0駅	0%
2032年度	16番線	80%	0駅	100%	0駅	0%
2033年度	14番線	90%	0駅	100%	0駅	0%
2034年度	8番線	96%	0駅	100%	0駅	0%
2035年度	6番線	100%	0駅	100%	0駅	0%
累計	143番線	100%	1駅	100%	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
桂駅ホームドア整備事業 （桂駅1～4番線）	当社線の車両条件に適応し、信号・保安システムとの連動に対応可能なホームドア関連技術を有している製造メーカーに随意契約とした。	技術提案型のコンペを実施した上で、当社の要求水準に合致する技術を有すると判断し、価格も妥当と認められる1社を選定している。	4 百万円
六甲駅ホームドア整備事業 （六甲駅1・4番線）	当社線の車両条件に適応し、信号・保安システムとの連動に対応可能なホームドア関連技術を有している製造メーカーに随意契約とした。	技術提案型のコンペを実施した上で、当社の要求水準に合致する技術を有すると判断し、価格も妥当と認められる1社を選定している。	8 百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。

2023 年 6 月 30 日公表予定

山陽電気鉄道株式会社

鉄道営業部 営業課

鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況について（お知らせ）

標記の件につきまして、弊社では 2023 年 4 月 1 日から運賃に加算して「鉄道駅バリアフリー料金」を収受させていただいておりますが、「鉄道駅バリアフリー料金制度の運用細目を定める通達（国鉄都第 111 号 令和 3 年 12 月 28 日付）」に基づき、2021 年度および 2022 年度のバリアフリー整備等の実績について以下の通りご報告申し上げます。

お客さまには引き続き料金のご負担をおかけしますが、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■2021 年度実績

整備費総額 0 百万円

■2022 年度実績

1. 整備費総額 1 億 25 百万円

【内訳】更新費：36 百万円、維持管理費等：89 百万円

2. 更新費の内容

- ・ エスカレーター更新費：36 百万円（山陽姫路駅 1 基）

3. 維持管理費の内容

- ① 収受システム改修費 4 百万円
- ② 駅頭機器改修費および表示改修費 85 百万円

➤ なお、2021 年度、2022 年度の料金収受額はございません。（2023 年 4 月 1 日収受開始）

当社は 2021 年度および 2022 年度の整備等実績においてメンテナンス費用を計上していません。

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	山陽電気鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	0 百万円
--------	-------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイレ	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	駅
	二経路以上確保駅	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)			
備考			

本年度までの累計整備費	0 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	山陽電気鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	125 百万円
--------	---------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイレ	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	駅
	二経路以上確保駅	駅

本年度徴収額		0 百万円	
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)			
備考			

本年度までの累計整備費	125 百万円
本年度までの累計徴収額	0 百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
スロープ	駅	ヶ所	百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線	百万円
段差隙間縮小	駅	番線	百万円
バリアフリートイレ	駅	ヶ所	百万円
車両のフリースペース	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
バリアフリートイレ	駅	ヶ所	百万円
車両	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			
維持管理費	百万円		
収受システム改修費	百万円		
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)	百万円		
備考			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
スロープ	駅	ヶ所	百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線	百万円
段差隙間縮小	駅	番線	百万円
バリアフリートイレ	駅	ヶ所	百万円
車両のフリースペース	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	1 駅	1 基	山陽姫路（新規着手）
バリアフリートイレ	駅	ヶ所	百万円
車両	編成	両	百万円
その他	駅		百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費	百万円		
収受システム改修費	4 百万円		
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	85 百万円		
備考			

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	0番線	0%	0駅	0%	1駅	100%
2024年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	100%
2025年度	0番線	0%	1駅	100%	0駅	100%
累計	0番線	0%	1駅	100%	1駅	100%

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2027年度	0番線	0%	1駅	11%	0駅	0%
2028年度	0番線	0%	1駅	22%	0駅	0%
2029年度	0番線	0%	1駅	33%	0駅	0%
2030年度	0番線	0%	1駅	44%	0駅	0%
2031年度	0番線	0%	1駅	55%	0駅	0%
2032年度	0番線	0%	0駅	55%	0駅	0%
2033年度	0番線	0%	1駅	66%	0駅	0%
2034年度	0番線	0%	2駅	88%	0駅	0%
2035年度	0番線	0%	1駅	100%	0駅	0%
累計	— 番線	— %	9駅	100%	— 駅	— %

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況について（お知らせ）

当社では 2023 年 4 月 1 日より、運賃に加算して鉄道駅バリアフリー料金を収受させていただいておりますが、「鉄道駅バリアフリー料金制度の運用細目を定める通達（国鉄都第 111 号 令和 3 年 12 月 28 日付け）」に基づき、下記の通り 2022 年度末時点における整備等計画の進捗状況をお知らせいたします。お客様には引き続き料金のご負担をおかけいたしますが、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

1. 具体的な公表項目

(1) 鉄軌道事業者名 : 神戸電鉄株式会社

(2) 2022 年度の整備費 : 189 百万円

(2021 年度の整備費 : 33 百万円)

(3) 2022 年度の主な整備内容 :

・大池駅（筆談対応インターホン 2 台）設置



・谷上駅（エスカレーター 2 基）更新



・岡場駅（エスカレーター 1 基）更新



(2021 年度の主な整備内容 : エスカレーター・エレベーターの維持管理)

(4) 2022 年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数 :

・ホームドア設置番線数 : 0 番線

・段差解消駅数 : 0 駅 (2025 年度に 1 駅を整備予定)

(5) 2022 年度の徴収額 : ごさいません

(2021 年度の徴収額 : ごさいません)

(6) 整備等計画の進捗状況 : 当初の計画通りに進捗しています。

(7) ホームドアの整備にあたって一般競争入札を実施しなかった場合には、その理由等 : なし

以上

2021年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	神戸電鉄株式会社
---------	----------

本年度整備費	33 百万円
--------	--------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイレ	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	駅	
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		0	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	33	百万円
本年度までの累計徴収額	0	百万円

2021年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
スロープ	駅	ヶ所	百万円
内方線付点状ブロック	駅	番線	百万円
段差隙間縮小	駅	番線	百万円
バリアフリースイレ	駅	ヶ所	百万円
車両のフリースペース	編成	両	百万円
その他		駅	百万円
備考			
(2) 更新費			
設備名	整備数		整備駅名
ホームドア	駅	番線	百万円
エレベーター	駅	基	百万円
エスカレーター	駅	基	百万円
バリアフリースイレ	駅	ヶ所	百万円
車両	編成	両	百万円
その他		駅	百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			
維持管理費(※)	33		百万円
収受システム改修費			百万円
その他費用 (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)			百万円
備考	※エレベーター、エスカレーターの維持管理		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2024年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2025年度	0番線	0%	1駅	100%	0駅	0%
累計	0番線	—	1駅	100%	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	0番線	0%	0駅	0%	0番線	0%
2027年度	0番線	0%	1駅	33%	0番線	0%
2028年度	0番線	0%	1駅	66%	0番線	0%
2029年度	0番線	0%	0駅	66%	0番線	0%
2030年度	0番線	0%	1駅	100%	0番線	0%
累計	0番線	—	3駅	100%	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
例) ○○駅ホームドア整備事業（××駅△△番線）			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。

2022年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	神戸電鉄株式会社
---------	----------

本年度整備費	189 百万円
--------	---------

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホームドア	駅 番線	
エレベーター	駅 基	
エスカレーター	駅 基	
スロープ	駅 ヶ所	
内方線付点状ブロック	駅 番線	
段差隙間縮小に資する設備	駅 番線	
バリアフリースイール	駅 ヶ所	
車両のフリースペース	編成 両	
その他	1 駅	大池駅
備考	※その他 筆談対応インターホン（1駅）	

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		0	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅

本年度徴収額	0 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	0	0	0
備考			

本年度までの累計整備費	223	百万円
本年度までの累計徴収額	0	百万円

2022年度 バリアフリー整備等実績

整備実績			
(1) 設置・改良費			
設備名	整備数	整備駅名	整備費
ホームドア	駅 番線		百万円
エレベーター	駅 基		百万円
エスカレーター	駅 基		百万円
スロープ	駅 ヶ所		百万円
内方線付点状ブロック	駅 番線		百万円
段差隙間縮小	駅 番線		百万円
バリアフリースイール	駅 ヶ所		百万円
車両のフリースペース	編成 両		百万円
その他	1 駅	大池駅（新規着手）	3 百万円
備考	※その他 筆談対応インターホン（1駅）		
(2) 更新費			
設備名	整備数	整備駅名	整備費
ホームドア	駅 番線		百万円
エレベーター	駅 基		百万円
エスカレーター	2 駅 3 基	谷上駅（新規着手） 岡場駅（新規着手）	45 百万円
バリアフリースイール	駅 ヶ所		百万円
車両	編成 両		百万円
その他	駅		百万円
備考			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費(※1)	33	百万円	
収受システム改修費		百万円	
その他費用(※2) (駅務機器改修費・駅頭表示改修費など)	108	百万円	
備考	※1 エレベーター、エスカレーターの維持管理 ※2 その他 駅務機器（券売機・改札機等）、駅頭表示（運賃表）改修費		

※整備駅名の記載に当たっては、括弧書で新規着手・継続の別をあわせて記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2025年度までの計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2021年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2022年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2023年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2024年度	0番線	0%	0駅	0%	0駅	0%
2025年度	0番線	0%	1駅	100%	0駅	0%
累計	0番線	—	1駅	100%	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における設置番線数（段差解消駅数）により算出すること

バリアフリー整備・徴収計画の進捗状況（2026年度以降の計画）

年度	ホームドア設置番線数		段差解消駅数 (移動等円滑化された経路が設けられている駅数)			
	設置数	計画進捗率	一経路確保駅		二経路以上確保駅	
			駅数	計画進捗率	駅数	計画進捗率
2026年度	0番線	0%	0駅	0%	0番線	0%
2027年度	0番線	0%	1駅	33%	0番線	0%
2028年度	0番線	0%	1駅	66%	0番線	0%
2029年度	0番線	0%	0駅	66%	0番線	0%
2030年度	0番線	0%	1駅	100%	0番線	0%
累計	0番線	—	3駅	100%	0駅	—

※計画進捗率は、計画期間における設置番線数（段差解消駅数）の累計/計画期間における目標数により算出すること

ホームドア整備詳細（随意契約を実施した場合のみ記載）

ホームドア整備事業名	随意契約とした理由	適正価格での発注のための措置	契約額
例) ○○駅ホームドア整備事業（××駅△△番線）			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円
			百万円

※事業内容の記載に当たっては、駅名、番線数をそれぞれ明記すること。